

「環境技術」執筆要領（全論文共通）

（2024年5月改定）

「環境技術」への掲載記事は、査読付論文と一般論文の2種類あります。これは、すべての原稿に共通の説明です。査読付論文の詳細については、「査読付論文投稿規定」を参照ください。

1. 投稿資格

査読付論文である[研究論文][技術論文][研究ノート][報告]は、責任著者が本学会会員（名誉会員を除く）であることとする。その他の論文については、執筆者の中に本学会会員を含むこととする。但しいずれの原稿も採否は、編集委員会がこれを決定する。

2. 記事の種類（投稿・依頼原稿のすべてについて）

| No. | 種類 | 内容 | 査読 | ページ (本誌面) | 掲載料 |
|-----|-------|--|----|--------------|-----|
| 1 | 研究論文 | 独創的で完成度が高い研究内容を含む論文 | 2名 | 7 | 必須 |
| 2 | 技術論文 | 開発技術や実験手法、調査手法、分析手法等において、技術面での新規性ないしは完成度が高い内容を含む論文 | 2名 | 7 | 必須 |
| 3 | 研究ノート | 断片的であるが論文に近い新規性がある内容を含む短報・速報 | 2名 | 5 | 必須 |
| 4 | 報告 | 実際的な実験や開発技術、調査、分析等の成果報告（有用なデータや情報を含む） | 1名 | 6 | 必須 |
| 5 | 総説 | 研究、技術を総合的にまとめ、識見に富んだ著作物 | 無 | 5 | |
| 6 | 論説 | 提案・意見 | 無 | 5 | |
| 7 | 解説 | 個別の分野についての情報のまとめ | 無 | 5 | |
| 8 | 海外情報 | 海外の環境技術関連情報 | 無 | 5 | |
| 9 | 講座 | 数回にわたるシリーズ | 無 | 5 | |

論文（原稿）の種類は、上表の他に、[行事（会議）報告][書評][ずいろん]等、各種コラムがあるが、いずれも誌面1,2ページとする。また、広告記事に準ずる[技術資料][商品ニュース]等がある。

3. 「環境技術」誌原稿の書き方・体裁など（但し、(3)以下は、全論文共通）

(1)原稿の提出について：ウェブサイトより書式をダウンロードして利用できます。

(2)上記「論文種類」のNo.5～7については、「タイトル」の他に「キーワード」が必要。

タイトル（和文・英文）は30字以内。キーワード（和文）は5個以内。

(3)文章：簡潔平明で、他分野の読者にも理解しやすい文体を心がける。

項目の分類は、次の例による。

（例）項1. …… 目1.1…… 細目1.1.1…… (1)……

(4)文字（原則として、明朝体）

a. 原則として当用漢字、平仮名（現代かなづかい）、アラビア数字（数量を表す）を用いる。

b. ローマ字、ギリシャ文字は誤植のないよう正しく書く。大文字、小文字の区別がわかりにくいものは、その別を明らかにしローマ字とギリシャ文字の別を明らかにする。単位は、SI単位を原則とする。

(5)数式：数式は、式(1)、式(2)……とし、重要なものだけを数学的約束に従い、簡単な形で、正確な表現で書く。

(6)図・表：図表や写真の点数は必要最小限とする。減らすようお願いする場合もある。

a. 図表のキャプション・文字は日本語、明朝体とする。査読論文は、和英どちらも可。

b. キャプションを付す。説明（最大100字）など図表中の文字は明朝体とする。

c. 同一内容の図と表がある場合は、どちらか一方で表示する。

d. 図表はモノクロで判別できること。背景色を無色とする。

- e. 図の日盛線の間隔は、できるだけ簡潔にする。
- f. 写真はモノクロとし、解像度が高く鮮明であること。
- g. 図・表・写真の説明は、次のようにする。

(例) 図 1 …… 表 1 …… 写真 1 ……

※書体はゴシック体。

(7)参考文献は下記の書式に従う。

a. 論文の場合……

著者名；論文名，掲載誌名，巻数，（号数），p. 初めのページ－終わりのページ，発行年。

(例) 藤川陽子；大阪－京都の地下水の水質問題と処理方策－色度，アンモニア等，環境技術，46，（5），p.26-33，2017.

※巻 (Vol.) 数はゴシック体。号 (No.) 数は () で囲む。

b. 図書の場合……

著者名；図書名，出版社名，総ページ数 p.，発行年。

(例) 金子光美；水道の来し方行く末，環境技術学会，160p.，2009.

※総ページは，ページ数の後に「p.」を入れる。

c. ウェブサイトの場合……

著者名；“ウェブページの題名”，ウェブサイトの名称，入手先，（参照日付）。

※入手先は，該当ページの URL を記入する。

(例) 大塚泰介；“R による珪藻群集の分析”，環境技術学会，<http://www.jriet.net/magazine/2017/diatomanalysis.html>，（参照 2017-11-01）。

4. カラー印刷

カラー印刷費用を自己負担して，カラー印刷にすることができる。

5. 著作権

著作権は本学会に帰属し，著作者が利用する場合，第一著者から事前に本会へ許可申請を行う。第三者からの複製，転載許諾申請に対し，公益的利用については，学会が許諾することがある。

また，本会は，複製権（PDF）と公衆送信権（ウェブ公開）の使用についても許諾権を有するものとする。

6. 別刷り料金（査読付論文以外。消費税は外税）

| | | | |
|---------|----------|----------|----------|
| 本文ページ数 | 25 部 | 50 部 | 100 部 |
| 6 ページまで | 16,500 円 | 22,000 円 | 26,400 円 |

(注意)

- ・7 ページ以上の場合，編集室に問い合わせてください。
- ・査読付論文の掲載料については，「査読付論文投稿規定」を参照。
- ・特集部分をまとめる，連載をまとめるなどのスタイルで別刷り作成もできます。